

【千葉薬品社長賞】

はしもと ねね
橋本 ねね

「死ねよ。」「うざい。」「出てって。」…。
汚れた言葉で、あなたの優しさに牙を向けてきた私。
「ありがとう。」「ごめんね。」「大好きだよ。」
優しい言葉で、私の弱さを受け入れてくれた母。
母親を何度も傷つけてきた私も、2020年、18歳になります。
新年を迎えたこのタイミングで、私は母親に想いを伝えます。伝えさせてください。
「辛い時、なんとなくうまくいかない時、悩んだ時、嬉しい時、楽しい時、幸せな時。
どんな時も、私を受け入れてくれてありがとう。そして、ごめんなさい。
ひどい言葉、いや、そんな一言では表せないほどの言葉を浴びせたこと、後悔しています。
時には、私に対する気遣いや愛を無視して、最悪な母親だと泣く日もありました。
本当にアホで、自分勝手に、頭の固い私です。
この間、髪の毛がたくさん抜ける、と言っていたよね。言われた時、私は無視をしました。
けれど、実はとても心配しています。
原因が疲れや、ストレスなのであれば、近いうちにママの好きな温泉、
一緒に行きませんか…？
ママが、出かけない？と誘ってくれる時、私は、嫌だ。というけれど、
本当はいつも嬉しいんだ。とっっても、とっっても嬉しい。
いつも素直になれなくてごめんね。
この手紙でママに何を伝えたかったのか、まとめることはできないけど、最後に一言、
伝えさせてください。
ママが、私のママで良かったです。ずっとずっとず〜っと、大好きだよ。」

(神奈川県 / 17歳 / 女性 / 高校生)

「母親に対する感謝や、申し訳なさを素直に伝えたい」という気持ちを
数年前から持ち続けていたから書きました。